

事業概要【コワーキング・交流室付きワーケーション体験施設を活用した移住促進事業】

推進当初

申請者	青森県青森市	初回採択回	令和6年度第1回募集
事業計画期間	R6～R8年度	期間中の総事業費 (カッコ内はR6年度事業費)	21,157千円 (10,909千円)
事業タイプ・類型	地方創生推進タイプ・横展開型	事業分野 (詳細)	②移住促進・地方創生人材の確保・育成等の人材分野
目的 (効果)	本市における人口の社会減を始めとした諸課題に対応するため、本市浪岡地区が有する「津軽の交通結節点/活用可能な住居 (空き家) が多い/生活利便性が高い」といった「地の利」を生かし、同地区に空き家リノベーションによる体験施設を整備し、「実生活がイメージできる生活体験」と「地域の多世代との交流」を生かした「地域一体での受入体制による交流体験」等を通じ、関係人口の増加を契機とした更なる移住・定住の促進を目指す。		
事業概要・ 主な経費	<p>○体験施設の整備及び管理運営</p> <p>市街地にある空き家を借上げ、複数組を受入可能な体験施設及び交流の場としてリノベーションによる整備を行うとともに、施設運営に必要な維持管理を行う。</p> <p>(リノベーション及び備品等設置に係る経費 5,299千円) (施設等借上げ及び維持管理に係る経費 3,056千円)</p> <p>○移住体験モニター事業の実施</p> <p>子育て世代等をメインターゲットに、近場での買い物体験や子育て世代との交流などの生活体験、地域住民との交流体験を実施する。</p> <p>(交流体験実施に係る経費 311千円)</p> <p>○ワーケーション体験モニター事業の実施</p> <p>フリーランスの方をメインターゲットに、リモートワーク体験×余暇体験及び地域住民との交流体験を実施する。(機器等借上げ及び交流体験等実施に係る経費 2,243千円)</p>		
KPI	<p>①地域へのUIターン数 (当該年度目標値8人)</p> <p>②移住体験・ワーケーション体験参加者数 (当該年度目標値86人)</p> <p>③体験以外の施設利用者数 (当該年度目標値22人)</p> <p>④本市空き家バンクの登録数 (当該年度目標値2件)</p>		<p>関連URL</p> <p>https://www.city.aomori.aomori.jp/</p>

事業運営主体

浪岡地区移住・定住促進協議会

◆活動内容◆

STEP1【関心層へのアプローチ】

- ▶SNSを活用した浪岡地区の情報発信、移住フェア等への参加等

STEP2【検討層へのアプローチ】

- ▶移住及びワーケーション体験施設整備、施設の管理運営
- ▶移住・ワーケーション体験モニター事業の実施

STEP3【計画層へのアプローチ、移住後のケア】

- ▶協力隊及び地域住民等による移住・定住に向けた住まいの紹介、くらしのサポート



情報発信



施設整備



モニター事業



くらしのサポート

□協議会

<構成メンバー>

- ・浪岡商工会(1)
- ・同青年部(1)
- ・浪岡金融団(1)
- ・なみおか未来創造会議(1)
- ・青森市浪岡連合婦人会(1)
- ・浪岡盛り上げ隊(1)
- ・浪岡振興部(2)

<アドバイザー>

- ・青森大学、青森中央学院大学(2)
 - ・artstudio tete(1)
 - ・青森市内建築士(1)
 - ・青森市移住コーディネーター(1)
- ※随時、オブザーバー参加

STEP1 関心層へのアプローチ

- ◇ 青森市浪岡地区に興味を持ってもらうため、SNSで浪岡地区の魅力を発信
- ◇ 浪岡地区により関心を持ってもらうため、相談会等への参加やオンラインで各種相談へ対応

情報発信

■ SNSを活用した浪岡地区の魅力発信 [直接経費なし]※

SNS(XやInstagram)を活用し、浪岡地区が有する「地の利」のほか、特色ある産業・風土・食・人物といった魅力情報を発信します。
併せて、先輩移住者のくらしの様子や移住者目線でのくらしに役立つ情報などを発信します。



移住相談会等への参加、オンライン移住相談の実施

■ 首都圏での移住相談会等への参加 [101千円]

ふるさと回帰センターで開催予定の「青森県東青地域移住フェア」及びAoMoLink赤坂で開催予定の移住者・体験者交流会へ参加し、同地区の魅力PRにより移住・ワーケーション体験者の誘致を図ります。



■ オンライン移住・住まい相談の実施 [直接経費なし]※

オンラインにより各種移住相談へ対応するほか、不動産業者等と連携したりリモートでの物件内覧等のサービスや空き家リノベーション事例の紹介など、住まいに関する相談へ対応します。

※協力隊+ワーケーション体験用のWi-Fi環境及び備品を活用



STEP2 検討層へのアプローチ

- ◇ 浪岡移住を検討してもらうため、同地区に空き家リノベーションによる体験・交流施設を整備
- ◇ 浪岡での実際のくらしや、仕事、地域性・風土などを体感できる移住・ワーケーション体験を実施

移住及びワーケーション体験施設整備、施設の管理運営

■ 空き家リノベーションによる施設整備 [5,299千円]

浪岡地区の空き家をリノベーションし、コワーキングスペースと交流室付きの体験・交流施設として整備します。

整備にあたっては、ワーケーション体験が可能となるようリモートワークに対応できる高速Wi-Fi環境を整備するほか、必要な備品類を設置します。

このほか、各部屋に冷暖房を完備すると共に、同時に複数組を受入可能な施設とします。(工事請負費3,742、備品購入費1,557) ※R6.7受入開始予定



■ 施設の管理運営 [3,056千円]

地域おこし協力隊員が中心となり、協議会と連携しながら体験者募集から体験後のケアまでをワンストップで実施します。

※施設の管理運営に必要な消耗品の調達やランニングコストの支払い等は、協議会事務局となる市が担当。

- (消耗品費761、燃料費137、光熱水費153、手数料214、保険料20、施設等借上料1,169、機器等借上料580、テレビ受信料22)

移住・ワーケーション体験モニター事業の実施

■ 移住体験モニター事業 [686千円]

子育て世代等をメインターゲットに、近場での買い物体験や子育て世代との交流などの生活体験、地域住民との交流体験を実施します。

また、子育て世代の交流会場としても開放することで関係人口を含めた移住前後の「つながり」創出の場としても活用します。[15組30人見込]
(報償金300、費用弁償375、手数料11)

■ ワーケーション体験モニター事業 [2,965千円]

フリーランスの方をメインターゲットに、リモートワーク体験×余暇体験及び地域住民との交流体験を実施します。

また、体験者、移住者及び地域住民等を交えた将来的な副業マッチングに向け、商工会関係者との交流機会を創出します。[28組56人見込]
(報償金1,120、費用弁償700、消耗品費23、手数料40、機器等借上料1,082)



STEP3 計画層へのアプローチ

◇ 浪岡移住を決意していただくための最後の一押しとして、各種支援制度を実施
(相談・申請の窓口は東青地域移住・交流サポート協議会事務局)

移住支援金(国) [31,000千円]

(国1/2・県1/4・市1/4負担)



[支援金額(定額支給)]	[予算額]
・単身世帯 600千円/世帯(10世帯見込み)	600万円
・複数世帯 1,000千円/世帯(15世帯見込み)	1,500万円
・子の加算 1,000千円/人(10人見込み)	1,000万円

[支給要件(共通)]

本市に転入する日の前日までの10年間のうち、通算5年以上(もしくは本市に転入する日の前日まで連続して1年以上)東京23区に居住または東京圏に居住し、かつ、東京23区内で勤務または個人事業主として通勤していた者。

[支給要件(個別:抜粋)]

<1.起業>

本市に転入した後1年以内に青森県起業支援事業に係る起業支援金の交付決定を受けていること。

<2.就業>

就業先が青森県が運営する求職者向けインターネットサイト「あおもりジョブ」に移住支援金の対象として掲載している求人であること。

<3.リモートワーカー>

所属先企業等からの命令ではなく、自己の意思により移住した場合であって移住先を生活の本拠とし、移住前の業務を引き続き行うこと。

<4.専門人材>

プロフェッショナル人材事業または先導的人材マッチング事業を利用して就業したこと。

<5.関係人口>

本市での移住体験を経験している、または本市での移住相談(連携推進課、東京ビジネスセンター、本市が参加する移住相談イベント及びUターン就活サポートデスクでの相談を含む。)転入前に2回以上行っていること。

新しい働き方移住補助金(市) [9,950千円]

(広域連携事業)



[支援金額(定額支給)]	[予算額]
・単身世帯 150千円/世帯(13世帯見込み)	195万円
・複数世帯 250千円/世帯(12世帯見込み)	300万円
・子の加算 250千円/人(20人見込み)	500万円

[支給要件(共通)]

本市に転入する日の前日までの5年間のうち、通算2年6月以上(もしくは本市に転入する日の前日まで連続して1年以上)県外に居住し雇用保険の被保険者または個人事業主として働いていたこと。

[支給要件(個別:抜粋)]

<1.起業>

事業内容について、青森市が設置する起業相談窓口で相談し、起業したこと。

<2.就業>

就業先が、青森県が運営する求職者向けインターネットサイト「あおもりジョブ」に掲載している求人であること。

<3.リモートワーカー>

転勤、出向、出張、研修等の所属している企業等の命令でなく自己の意思により移住したこと。

<4.専門人材>

プロフェッショナル人材事業または先導的人材マッチング事業を利用して就業したこと。

<5.関係人口>

本市での移住体験を経験している、または本市での移住相談(連携推進課、東京ビジネスセンター、本市が参加する移住相談イベント及びUターン就活サポートデスクでの相談を含む。)転入前に2回以上行っていること。

医療・福祉職子育て世帯移住支援金(県) [16,000千円]

(県3/4・市1/4負担)

[支援金額(定額支給)]	[予算額]
・子育て世帯 1,000千円/世帯(4世帯見込み)	400万円
・子の加算 1,000千円/人(8人見込み)	800万円
・ひとり親加算 1,000千円/世帯(4世帯見込み)	400万円

[支給要件]

通算5年以上、青森県外に居住し、転入後に医療・福祉職に就業もしくは資格取得のために養成機関に就学する者子育て世帯。

リモートワーク活動支援金(市) [3,200千円]

(広域連携事業)

[支援金額(定額支給)]	[予算額]
・リモートワーク活動支援金 360千円/件(5件見込み)	180万円
※令和4・5年度受給者に対する経過措置	
・リモートワーカー応援加算金 100千円/人(14件見込み)	140万円

[支給要件]

青森市移住支援金もしくは新しい働き方移住支援金の交付決定を受けているかた、住民票上、上記に該当するかたと同一世帯でリモートワークを行うかた。

STEP3 計画層へのアプローチ

移住後のケア

- ◇ 移住先の住まいとしての空き家活用にあたり、地元金融機関と連携した住まいサポートを実施
- ◇ 「人の利」を生かし、移住に向けた地域一体でのサポートを実施
- ◇ 孤立化の防止に向け、移住者交流のほか日常の声かけや悩み相談など「愛あるお節介」を提供

協力隊及び地域住民等による移住・定住に向けた住まいの紹介、くらしのサポート

- 協力隊及び地域住民等による移住・定住に向けた住まいの紹介 [直接経費なし]
移住計画層に対し、具体的な空き家リノベーション事例の提案(専門部会で調査研究)や地元金融機関による融資相談など、移住後の住まいとして空き家の利活用を働きかけます。

また、地域一体での受入体制により移住前の「つながり」を創出し、「人の利(=地域に頼れる・相談できる住民・サポーターが複数いる)」が浪岡移住の最後の一押しとなるようにアプローチします。



- 地域住民等の「愛あるお節介」によるくらしのサポート [直接経費なし]
移住者の地域での孤立化を防止するため、移住者交流会の開催や事務局によるくらしの情報提供、相談対応などのケアを行うほか、地域住民による日常の声かけを契機とした悩み相談や近所づきあいなど「愛あるお節介」により、つながりを強化します。



浪岡地区移住・定住促進協議会会則

(名称)

第1条 本会は、浪岡地区移住・定住促進協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目的)

第2条 協議会は、青森市浪岡地区への移住者や関係人口、二地域居住者の拡大に関する取組及び人口減に伴う地域課題の解決に資する取組を行い、もって浪岡地区の人口社会減抑制と活力ある地域社会の実現を目指すことを目的とする。

(事業)

第3条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の事務・事業を行う。

- (1) 移住関連施策の関係機関との調整
- (2) 移住情報・浪岡魅力の発信
- (3) 移住相談
- (4) 移住・ワーケーション体験施設整備及び管理運営
- (5) 移住体験モニター事業
- (6) ワーケーション体験モニター事業
- (7) 移住者等支援制度の検討
- (8) 移住者のサポート体制の構築及び地域住民との交流拠点の検討
- (9) 空き家・空き店舗を活用した移住者向け住宅、ビジネスホテル等の整備、管理運営等の調査研究事業
- (10) 二地域居住等の推進に関する検討
- (11) その他前条の目的を達成するために必要な事業

(組織)

第4条 協議会は、別表に掲げる団体等から推薦された者又は当該団体等に属し協議会への参画を承諾した個人（以下「会員」という。）をもって組織する。

2 協議会に、オブザーバー又はアドバイザーを置くことができる。

(役員)

第5条 協議会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 監事 2名
- 2 会長は、青森市浪岡振興部長をもって充てる。
 - 3 副会長及び監事は、会員の中から互選で選出する。
 - 4 監事は、他の役員を兼ねることができない。

(役員の仕事)

第6条 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。職務を代理する副会長の順位は、役員名簿に登載の順による。
- 3 監事は、協議会の会計を監査する。

(役員の仕事)

第7条 役員の仕事は、選任された日から2年を経過した後に最初に到来する総会の日までとする。ただし、後任の役員が選任されていない場合は、任期の末日後最初の総会が終了するまでその仕事を延長する。

- 2 補欠のため選任された役員の仕事は、前任者の残任期間とする。

(報酬等)

第8条 役員及び会員は、無報酬とする。

- 2 役員及び会員には、その職務を行うために要する費用を弁償することができる。
- 3 前項に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(総会)

第9条 協議会の総会は、会長が招集し、議長を務める。

- 2 総会は、会員の過半数の出席(委任状の提出があった場合は出席者数にこれを加えた数)をもって成立する。
- 3 総会の議決は、出席者の過半数により決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
- 4 総会は次の事項について議決する。ただし、必要に応じ会員への持ち回り合議を経ることによって、総会の議決があったものとみなす。
 - (1) 会則の制定及び改廃
 - (2) 事業計画及び事業報告
 - (3) 収支予算及び収支決算
 - (4) その他協議会の運営に関する重要事項
- 5 総会は、年2回開催するほか、必要に応じて開催する。

(専門部会)

第10条 協議会は、第3条第9号に掲げる事業を実施するため、専門部会を置くことができる。

- 2 構成員の報酬等は、第8条の例によるものとする。
- 3 その他専門部会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(経費)

第11条 協議会の経費は、次の収入をもって充てる。

- (1) 負担金、補助金、寄附金
- (2) その他の収入

(会計年度)

第12条 協議会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(解散)

第13条 本会が、総会の議決に基づいて解散する場合は、会員の5分の3以上の承認を得なければならない。

(残余財産の処分)

第14条 本会の解散のときに有する残余財産処分方法は、総会において会員の5分の3以上の議決を得て決定する。

(事務局)

第15条 協議会の事務局は、青森市浪岡振興部総務課に置く。

2 事務局長は青森市浪岡振興部総務課長をもって充てる。

(その他)

第16条 この会則に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

(施行期日等)

1 この会則は、令和6年4月9日から施行する。

2 本協議会の設立当初の会計年度は、第11条の規定にかかわらず、設立の日から令和7年3月31日までとする。

別表（第4条関係）

青森市浪岡商工会

青森市浪岡商工会青年部

浪岡金融団

なみおか未来創造会議

青森市浪岡連合婦人会

浪岡盛り上げ隊

青森市浪岡振興部

その他会長が必要と認める団体又は個人で総会の同意を得た者

浪岡地区移住・定住促進協議会 会員名簿

《会員》

2025.3.18現在（敬称略）

役職等	所属団体等	所属団体役職	氏名	備考
会長	青森市浪岡振興部	部長	館 山 公	
副会長	青森市浪岡商工会	理事	赤 石 拓 哉	
監事	浪岡盛り上げ隊	代表	後 藤 公 司	
監事	浪岡金融団	幹事	古 坂 寿 人	青森みちのく銀行 浪岡中央支店長
会員	青森市浪岡商工会青年部	部長	有 馬 拓 哉	
会員	浪岡連合婦人会	会長	鎌 田 律 子	
会員	青森市浪岡振興部	次長	石 村 淳	

《アドバイザー》

	所属団体等	所属団体等役職	氏名	備考
	青森中央学院大学	経営法学部教授	竹 内 紀 人	
	青森大学	総合経営学部教授	森 宏 之	
	artstudio tete	代表	石 岡 有 佳 子	
	青森市移住コーディネーター		黒 竹 健 司	
	建築士		稲 見 公 介	

《オブザーバー》

	所属団体等	所属団体等役職	氏名	備考
	合同会社 佐藤宅建	代表社員	佐 藤 公 正	
			森 健	

《事務局》

	所属団体等	氏名	担当	備考
事務局長	青森市浪岡振興部 総務課長	鳥 谷 部 稚 子	移住定住促進総括	
事務局	青森市浪岡振興部 総務課 主幹	吉 町 克 己	移住定住促進副総括	
事務局	青森市浪岡振興部 総務課 主査	齋 藤 康 範	移住定住主担当・移住体験	
事務局	青森市浪岡振興部 地域づくり振興課 主幹	木 村 真 吾	二地域居住・空き店舗活用	
事務局	青森市浪岡振興部 地域づくり振興課 主事	永 田 亜 希	二地域居住・空き店舗活用	
事務局	青森市浪岡振興部 地域づくり振興課 主事	中 村 大 志	副業マッチング	
事務局	青森市地域おこし協力隊	小 林 康 二	体験施設管理運営、メインアテンダー（生活環境案内等）	

浪岡地区移住・定住促進協議会 役員名簿

2025.3.18現在

職名	氏名	所属団体・役職	備考
会長	館山 公	青森市浪岡振興部長	充て職
副会長	赤石 拓哉	青森市浪岡商工会 理事	互選
副会長	欠員		互選
監事	古坂 寿人	浪岡金融団 監事(青森銀行 浪岡中央支店長)	互選
監事	後藤 公司	浪岡盛り上げ隊 代表	互選

浪岡地区移住・定住促進協議会 令和6年度 事業計画

【事業計画】

- 移住情報・浪岡魅力の発信
 - ・SNSによる浪岡の地域情報、暮らしに関する情報の発信
- 移住相談
 - ・移住前後の相談対応(オンライン含む)
- 移住・ワーケーション体験施設整備・管理運営
 - ・空き家をリノベーションした移住・ワーケーション体験施設の整備
(スケジュール予定)

4月: 空き家賃貸借契約
 4~7月: リノベーション・施設整備・体験者募集開始
 7月~: 体験者受入開始(2月までor予算範囲内)
 2月: 体験終了・実績取りまとめ、次年度準備



- 移住体験モニター事業 [15組・30人想定]
- ワーケーション体験モニター事業 [28組・56人想定]
 - ・浪岡地区での移住・ワーケーション体験の企画・実施、体験者との交流、住まい探しや暮らし、子育て等に関する地域の案内、体験前後の相談対応(オンライン含む)
 - ・移住・ワーケーション体験者と地元企業とのビジネスマッチングに向けた交流
 - ・浪岡地区への移住のサポート



- 二地域居住等の推進に関する検討
 - ・二地域居住誘導に向けた地域再整備計画の検討、地区内ランドデザインの検討
 - ・二地域居住誘導に向けた支援制度の検討

- その他(移住者サポートほか)
 - ・浪岡地区へ移住したかたの移住後のサポート・ケア
 - ・大学や関係団体との連携による浪岡地区の空き家・空き店舗を活用した移住者向け住宅、ビジネスホテル等の整備、管理運営等の調査研究
 - ・なみおか未来創造会議等関係団体との連携によるシビックプライド醸成

目標値設定

域外から浪岡地区への移住者(市の移住相談、移住体験等を経た移住者の人数)

年度別目標	R6: 8人	R7: 13人	R8: 16人	
-------	--------	---------	---------	--

浪岡地区移住・定住促進協議会 令和6年度 収支予算

(自 令和6年4月9日 至 令和7年3月31日)

【収支予算】

●収入の部

単位(円)

区分	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	増減 (R6-R5)	内訳
負担金	12,006,000	0	12,006,000	令和6年度浪岡地区移住・定住促進事業費負担金
その他	0	0	0	
繰越金	0	0	0	
合計	12,006,000	0	12,006,000	

●支出の部

単位(円)

区分	令和6年度 予算額	令和5年度 予算額	増減 (R6-R5)	内訳
事業費	12,006,000	0	12,006,000	移住情報発信事業費 0 移住相談事業費 0 体験施設整備事業費 5,299,000 体験施設管理運営事業費 3,056,000 移住体験モニター事業費 686,000 ワークーション体験モニター事業費 2,965,000 その他事業費(二地域居住等推進の検討、 移住者サポートほか) 0
合計	12,006,000	0	12,006,000	

移住・ワーケーション体験実績[浪岡]



* 浪岡移住・ワーケーション体験では、**地域交流体験を必須**（移住体験は任意）としており、婦人会の案内による「街歩き体験（浪てく）」、「郷土料理体験」、郷土歴史家のガイドによる「浪岡歴史探訪」などのほか、歓迎交流会を浪岡家で行い、協議会関係者と一緒に食事・懇談する機会を設けており、参加者から高評価をいただいている。子ども連れで参加の場合、保育園一次預かり体験や児童館体験を行っており、子どもが地域になじめるか、子どもを預けやすいかといった環境を確認いただいた。※体験後のアンケート結果は別紙。

⇒ 移住に関してや、移住したあとも、**気軽に相談できる頼れる地元住民との関係性**ができることで、生活上の不安や地域の中で孤立するような心配事もなくなり、安心して移住できることを認識していただいている。



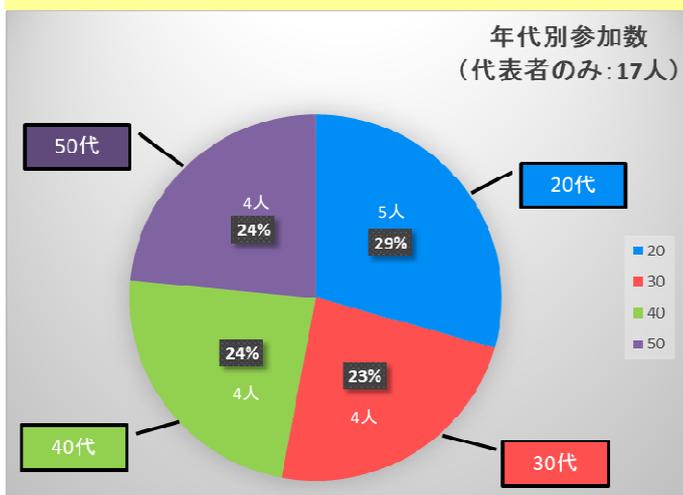
令和6年度浪岡移住体験・ワーケーション体験実績【17組 34人】 ※リピーター 2人(2回体験1人、3回体験1人)

◇移住体験： 7組 15人(うち20-30代 12人、子ども1人) ⇒ **うち 今年度移住したかた 1名**

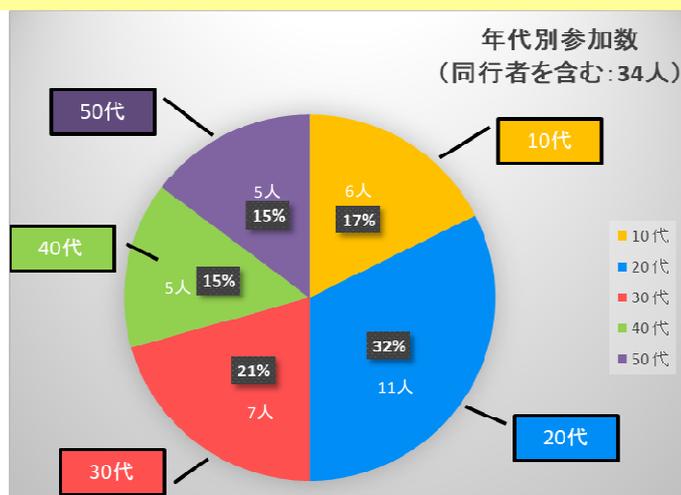
◇ワーケーション： 10組 19人(うち20-30代 6人、子ども5人) ⇒ **うち 今年度移住したかた 2名**
+バドミントン関係 移住済3名、予定1名

年代別参加者数(全体、移住体験、ワーケーション体験)

○年代別参加者(全体) 17組34人

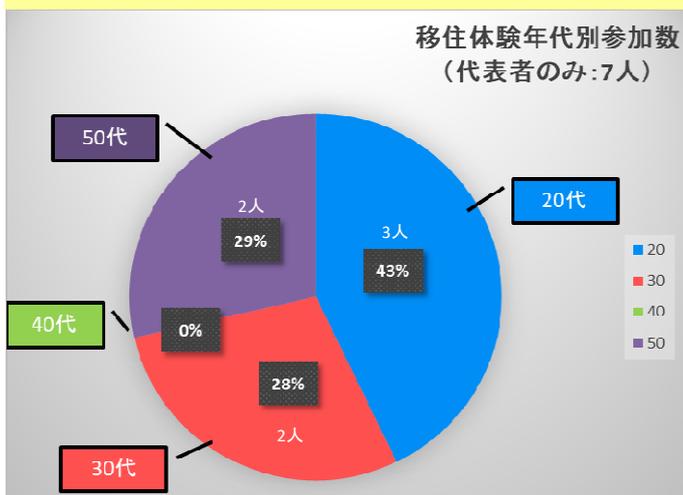


30代以下参加者 52%(17人中9人)

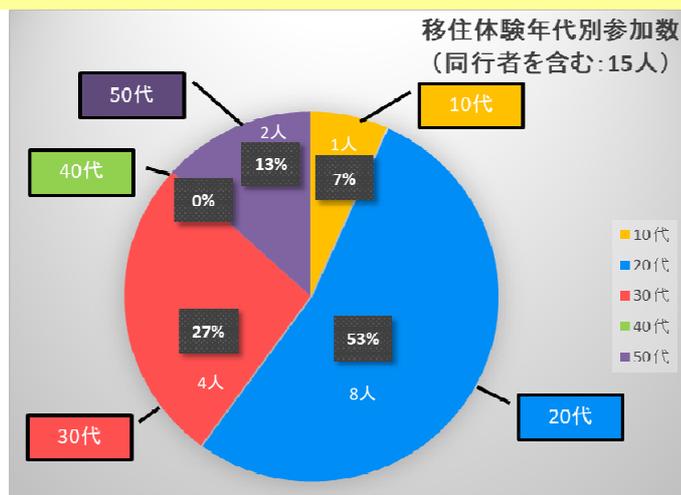


30代以下参加者 70%(34人中24人)

○年代別参加者(移住体験) 7組15人

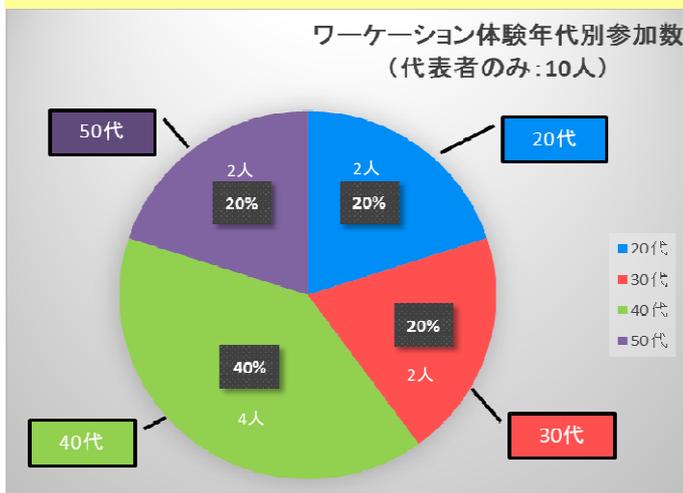


30代以下参加者 71%(7人中5人)

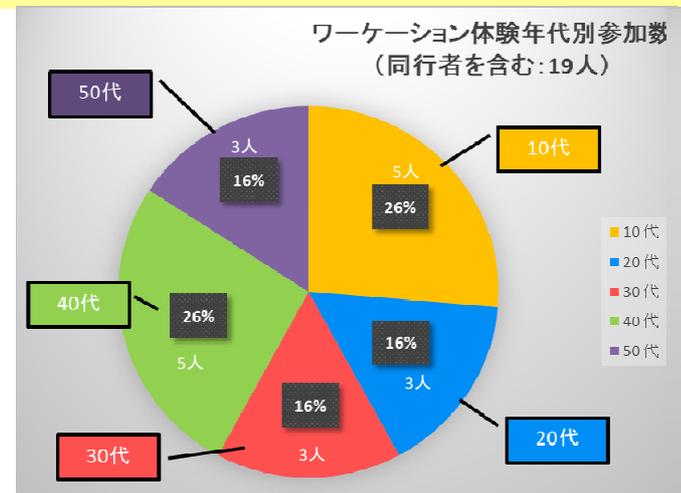


30代以下参加者 87%(15人中13人)

○年代別参加者(ワーケーション体験) 10組19人

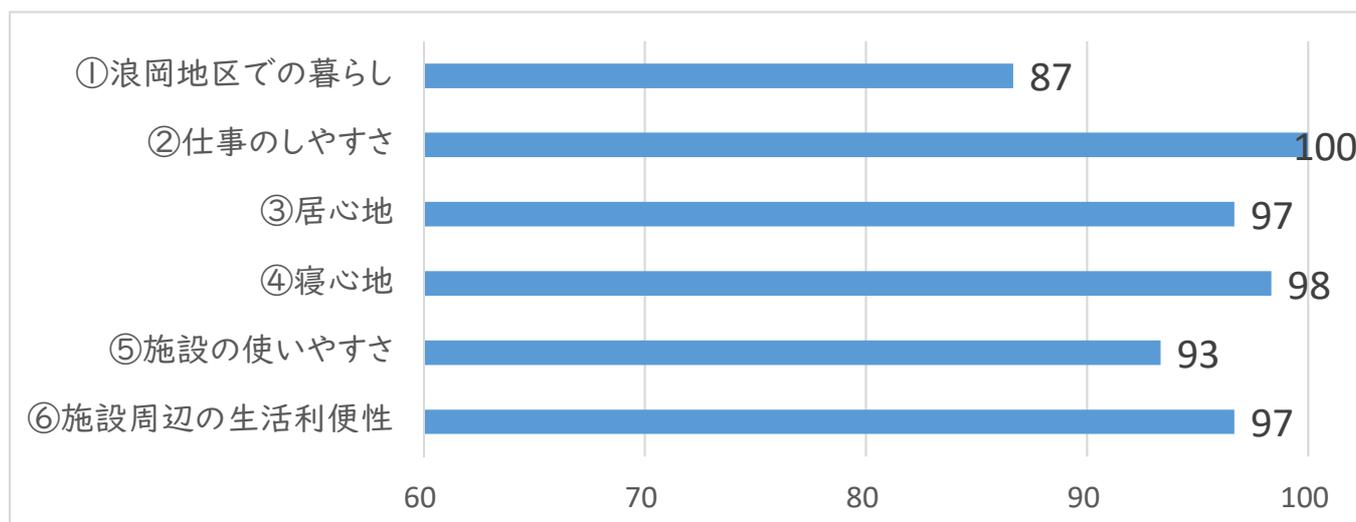


30代以下参加者 40%(10人中4人)



30代以下参加者 58%(19人中11人)

移住体験者アンケート結果（暮らし、生活環境）



◇主な感想・意見◇

- ① 駅、空港へのアクセスが良く、住宅地も多いため安心して暮らせそう。
車は必須とを感じるが雪のシーズンの運転がネック。
- ② モニターやWi-Fiも使えて快適に仕事ができる。
仕事中たまに聞こえてくる鳥の鳴き声がすごく良かった。
- ③ 東京で過ごすよりも暖かく過ごせた。お風呂はやや寒かった。
- ④ すぐ寝落ちしました。部屋も寝具も暖かく冬でも安心して寝られそう。
- ⑤ 電子機器も充実していて、家で過ごすように生活できた。スマートキーで開閉できるのもありがたかった。
- ⑥ 近くにスーパーや温泉、飲食店がありとても便利。
主要各所からのアクセスが良く、電車がある、駅からも歩けることも住む際には決めてとなるポイントの一つ。

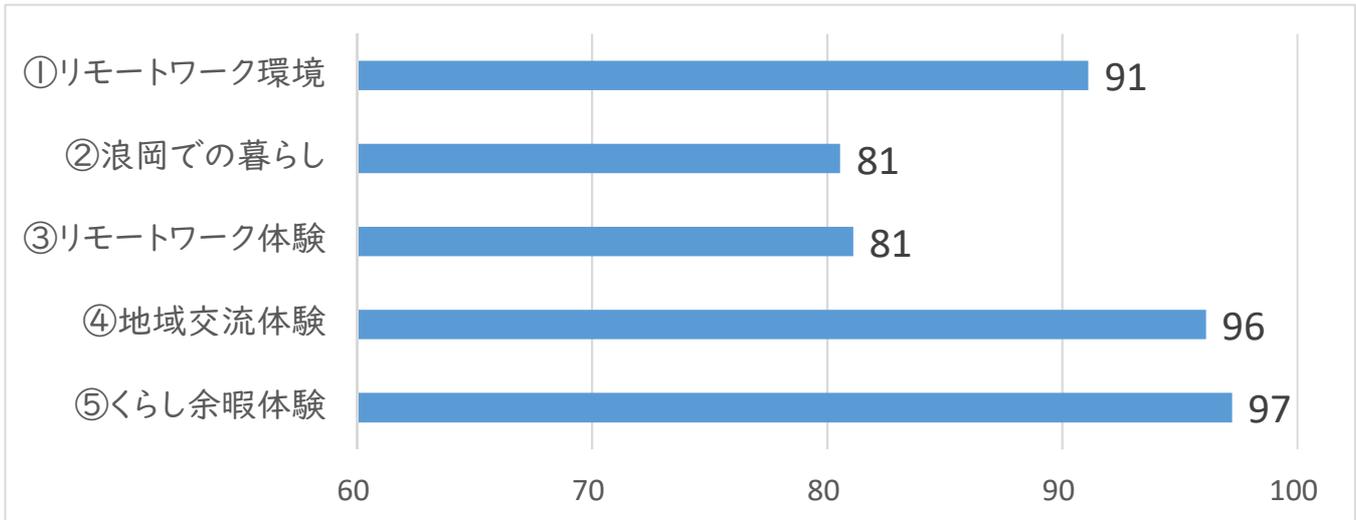
◇移住体験でやってみたいこと◇

- ・ 地域の人と一緒に昼ご飯を食べたり、イベントのお手伝いをしてみたい。
- ・ 先輩移住者や地域で事業をされている方との交流会。
- ・ イベントなどのサポートを通して地域の人と関わってみたい。

◇青森（浪岡）へのアドバイス、エールなど◇

- ・ まずは関係人口としてご協力できれば。将来的な移住先として候補にあるので、色々な面を知れると嬉しい。
- ・ 移住体験を通して人の温かさまで体験させていただいて嬉しかった。後日、東京でカフェを利用した際、とても人に話しかけられる雰囲気ではなかったので青森が懐かしくなった。

ワーケーション体験者アンケート結果 (リモートワーク環境、暮らし、各種体験)



◇主な感想・意見◇

- ①圧倒的に青森の夏は過ごしやすい。暑さの質が東京と全く違う。
浪岡家と同様の居住スペース、住環境であれば何の問題もなくリモートワークできそうだが、車は必須であると感じた。
- ②生活圏が比較的コンパクト。適度な田舎感。温泉が多く、安くて驚いた。
農作物の直売などは価格・品質面でかなり魅力的。
- ③環境が整っていて想像以上に快適に仕事ができた。
リモート会議などの際、あびねすを拠点とするには少し厳しい。
- ④婦人会のお二人と散策させていただいた体験は非常に貴重だった。
実際に住んでいる方と交流することで浪岡という街に愛着を感じた。
将来、移住・二地域居住などを検討する際、温かく受け入れてもらえそうな雰囲気を感じることができた。
- ⑤自転車ですぐに市内をまわる時間を設けられたのはとても良かった。
滞在中、温泉にも毎日行き素晴らしい時間を過ごさせていただいた。

◇ワーケーション体験でやってみたいこと◇

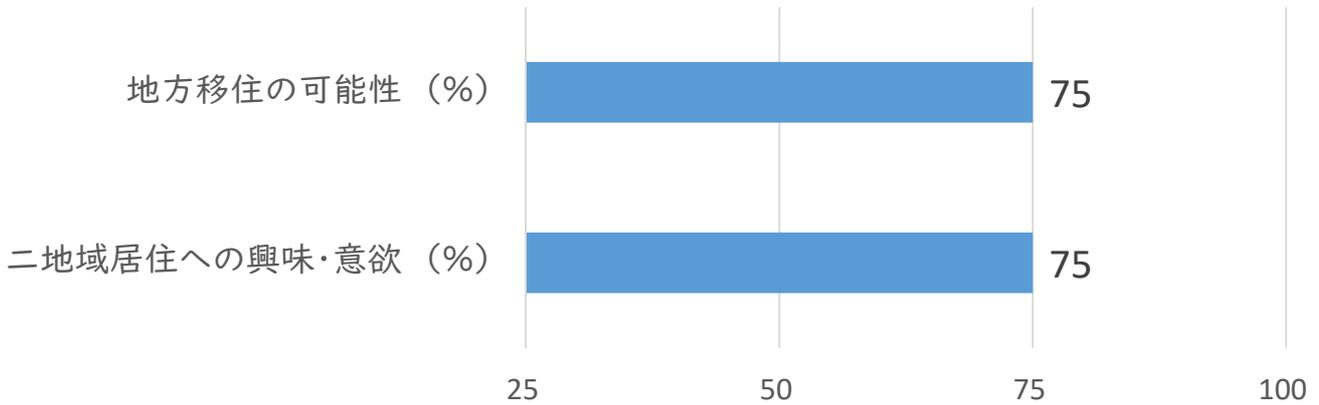
- ・カーリングを体験したい。ご当地のプロスポーツを応援したい。
- ・ツリーハウス作りや、キャンプ場でテントを建ててゆったり珈琲を飲みたい。
- ・雪かき、雪降ろし作業、地域の自治会参加や共同体でのお手伝い。テントサウナ。

◇青森(浪岡)へのアドバイス、エールなど◇

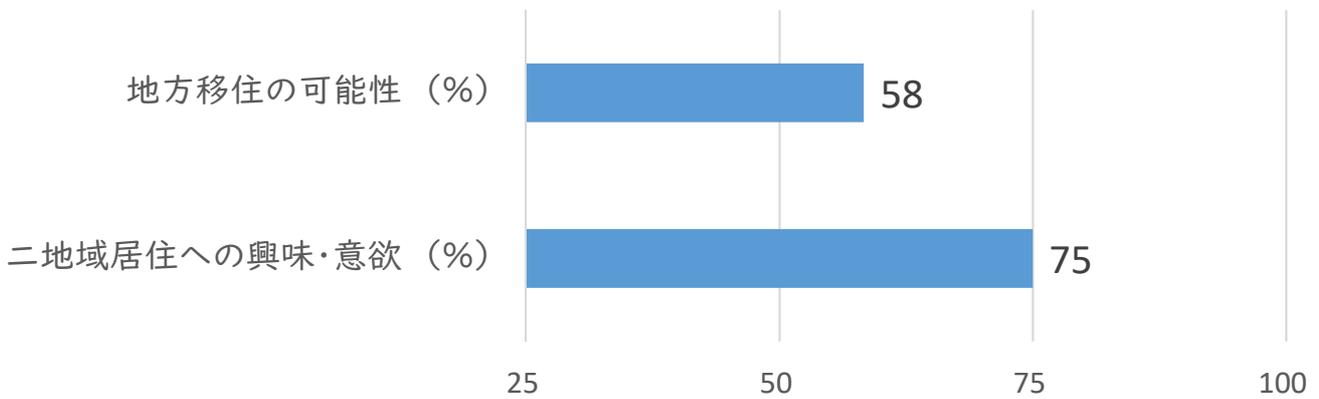
- ・申込後はほったらかしの自治体も多い中、プランニングから手厚いアテンドまで移住後も様々な支援を受けられると感じた。
- ・リピーター向けのプログラムを検討いただけると複数回の参加がしやすく、そのうちに浪岡が気に入って自分で拠点を作って滞在できるように思えた。
- ・今回のワーケーション体験がこれまでの青森訪問の中で一番、移住に踏み切りたいと思える一歩になったような気がする。

移住、二地域居住について

移住体験者



ワーケーション体験者



◇青森(浪岡)のイメージ◇

- + 夏涼しい。土地が広い。景色が美しい。食べ物が美味しい。温泉いっぱい。
- + 人間としての温かみや余裕を感じる。時間がゆっくり流れている。
- + 田舎であること。
- 雪シーズンの移動が大変そう。若者が少なくなっている？
- 広い公共スペースが活用しきれておらず、勿体ない。
- 娯楽要素が少なそう。車がないとどこへもいけなそう。

◇青森(浪岡)に移住・二地域居住する場合の決め手となる要件・条件◇

- ・交通の便のよさ(空港・新幹線駅・バスターミナルそれぞれの近さ)
- ・交通の利便性、家賃

◇移住、二地域居住に当たっての課題(選択された数)◇

- ・勤務先が了承しない(3)、顧客が困る(3)、家族の理解(2)、雪や寒さ(2)
- ・知人友人が少ない(6)、買い物交通等が不便(5)、娯楽が少ない(2)、その他(4)

◇必要な財政支援(選択された数)◇

- ・移住支援金(6)、施設等の利用料補助(1)、引っ越し費用補助(5)、交通費補助(6)
- 住宅取得費助成・家賃補助(3)

[効果検証]令和7年度に向けた事業方向性

【事業概要及び要求額】

□移住情報・浪岡魅力の発信

- ・SNSによる浪岡の地域情報 ⇒ Xだけでは足りないため、Instagramの活用も検討 ※協力隊を最大限活用
- ・暮らしに関する情報 ⇒ 生活便利マップ作製検討(店舗、病院、学校、避難所、温泉、子どもが遊べる場所…etc)



□移住相談

- ・あびねすに相談ブースを設置 ※協力隊員配置し対応(住居や行政手続きなども) ⇒ 保留(内外要因の変化を踏まえ再検討)
- ・就業、起業に関する相談にも、あおスタコーディネーター等に派遣依頼し、あびねすで対応 ⇒ △オンライン対応検討

□体験施設の管理運営

□移住体験モニター事業

□ワーケーション体験モニター事業

下記内容で継続実施(※リピーター向け余暇体験コンテンツを検討・実施)

- ・浪岡地区での移住・ワーケーション体験の企画・実施、体験者との交流、住まい探しや暮らし、子育て等に関する地域の案内、体験前後の相談対応(オンライン含む)
- ・移住・ワーケーション体験者と地元企業とのビジネスマッチングに向けた交流
- ・浪岡地区への移住のサポート
- ・浪岡地区での移住・ワーケーション体験者を増やしなが、浪岡ファンを増やしていく



□二地域居住等の推進に関する検討

- ・若者がいつでも集まれる・交流できる施設として、あびねすを拠点整備 ⇒ 保留(内外要因の変化を踏まえ再検討)
- ・二地域居住誘導に向けた支援制度の検討 ⇒ 継続検討

□その他(移住者サポートほか)

- ・浪岡地区へ移住したかたの移住後のサポート・ケア ⇒ 継続実施
- ・空き家・空き店舗を活用した移住者向け住宅、スモールビジネス店舗等の整備支援制度の検討 ⇒ なみおかりノベ×スモールビジネス合宿の実施に向けて検討
- ・移住者が空き家等を購入した場合の、DIY費用・リノベ費用支援制度検討 ⇒ 継続検討

目標値設定

域外から浪岡地区への移住者(市の移住相談、移住体験等を経た移住者の人数)			
年度別目標	R6:8人	R8:16人	R8:17人